

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞  
学校教育部門

『『鎌倉時代の勉強をしよう』が目指すもの』

玉川大学・玉川学園全人教育研究所

URL : <http://www.tamagawa.ac.jp/SISETU/kyouken/kamakura>

実践のねらい

鎌倉時代の学習を通して「校種・学校・学年を超えた学習の共有」と「適切な指導」、「良質な教材の作成」を目指した。

鎌倉時代に限って言えば、東日本と西日本とでは武士のあり方や庶民の生活に大きな差がある。それぞれの地域で調べたことや学習したことを互いに発表し合うことができたなら、もっと立体的で生き生きとした鎌倉時代が見えてくると考えた。

さらに、インターネットを使えば複数の指導者に学ぶことも可能である。私が制作・運営している「鎌倉時代の勉強をしよう」には鎌倉在住の方をはじめ、地方の先生、本学（玉川大学・玉川学園）の教員など複数の指導者が得意分野で対応しており、毎日全国の子どもや大人から「もっと知りたい」「どうしてなの？」という質問が届く。一人の知識には限界があるが複数ならばそれを補うことが可能である。

一人の教師が、「教室」という限られた場所で、決まった時間に行っていた学習は、ネットワークにつながった瞬間に、「複数の指導者による」「日本中、あるいは地球規模での」「都合のよい時間」の学習に変身する。しかも違った「場所」や「立場」で学び合うことの利点を生かせば、それまで別個だった情報や知識が融合されて、さらに知識を高めることができよう。

本学習ページでは養護学校の生徒や成人も参加した学習実験も行っている。コンピュータをうまく利用すれば、場所や時間はもちろん立場を超えて学習しあうことが可能であり、しかもやり取りした内容や児童・生徒が制作したページはそのまま学習のデータベースにもなる。「離れたところにも同じ内容の学習ができて便利だ」だけではテレビの通信講座と何ら変わるころはない。「学習の中身が問われる」と言われる時

代にあって、「鎌倉時代の勉強をしよう」は一方通行から双方向へ、さらに「単なる双方向の遠隔学習」を超えた、多方向相互の学習を目指したホームページである（資料1）。

特徴・工夫・努力した点

教科書や本には載っていないことを知りたい人たちの質問が多く、しかも小学生から大人までと世代も多様であるために、図や説明文を年令に合わせて工夫をした。そうしたことに対応するために、質問とアドバイスのコーナーである「みんなの広場」は、「小学生」「中学生」「高校生以上一般」に分けた。

また、視覚的に理解してもらうために図版や写真を多くした。したがって動画や音は極力使わないシンプルなページ作りを心掛けた。

しかし、何より努力している点は「難しい内容」「最新の情報」をできるだけわかりやすく説明することであろう。と同時に、このページでの学習を通して子どもたちが「歴史の学習」を楽しいと感じるようなものにする、この学習がきっかけとなって次の学習に取り組めるようなアドバイスをすることにも心掛けている。

実践内容

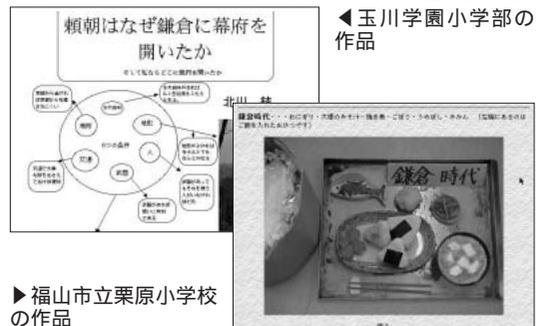
「いつでも」「どこでも」「だれでも」

好きな時に好きな場所で「質問」や「疑問」を送り、ホームページ上で発表し合う“Anytime Anyplace”の学習と、リアルタイムに数地点を結んで学習する“Realtime Anyplace”の2形態の学習実験を平成9年より続けている。“Anytime Any place”の学習では子どもたちから送られてきた質問に対して、ネット上で

資料1・「鎌倉時代の勉強をしよう」



資料2・小学生の学習成果を発表しているページから。いずれもネット上での学習の助言や意見交換で作り上げられた。



▶福山市立栗原小学校の作品

対応する複数の指導者による回答や学習の助言をホームページ上に掲載する。それを見た他の人々との意見交換を促進させたり、学習成果を発表する場として機能させている。

「鎌倉時代の勉強をしよう」のメインになるのが、このように「寄せられた質問」に「回答」や「助言」を与えること。そして子どもたちの学習発表の場としての活用である（資料2）。

リアルタイムの遠隔学習（鎌倉での例）（写真1・2）

もう一つの形態である「Realtime Anyplace」の学習は、フィールドに出てモバイルコンピューティングを利用しての学習実験を行うことが多かった。子どもたちが現地に行ったときには「その場」で知りたいこともある。また現地に詳しい父母からのセッションを受けることも可能である。もちろん他校の子どもたちが参加して学習することもできる。また、教室で行われる授業に、他の指導者や専門家にリアルタイムに参加してもらい、児童・生徒に助言を与える実験も行っている。児童や生徒は「一人だけの先生」ではなく、複数の先生に指導を受けることが可能となった。

本年6月に玉川学園小学部の6年生と行った実験では、鎌倉に行く4つのグループがコンピュータとデジタルカメラを持ち、現地からのレポートや質問がホームページに送られてきた。それに対しての先生や父母、あるいは他校からのアドバイスも同時に入ってきた。

「頼朝の墓に島津氏の家紋がついているのはなぜ？」とか「滑川はなぜ滑川というの？」「切り通しに丸や四角の石が積んであるのはなぜですか？」などといった、疑問に対して、鹿児島島の生徒が頼朝と島津氏の関係について答え、鎌倉在住の人が川の名前の由来を説明し、専門家から五輪塔の説明を受けることが出来た。知り得た情報は学校に持ち帰り「なぜ頼朝が鎌倉に幕府を開いたのか」を考える材料となった。

また、帰ってきてからの「まとめ」と「発表」の授業実験では授業中にスクリーンを通しての指導や、プリント類の送付を行い、一人の教師に頼らない学習の



◀写真1・鶴岡八幡宮から質問を送る児童



▶写真2・離れた研究室からアドバイスする研究員

実践を行い、生徒の調べ学習の促進に寄与することができた。

当日他校よりネットワークに入り学習に参加した方々のメッセージを一部紹介する。

こんにちは。福島女子短期大学と申します。今日の午後、「ネットワーク利用研究」ゼミナールの授業で、短大生と一緒に皆さんの様子を見ていました。授業は今終わりましたが、こちらの学生は皆「鎌倉時代の勉強になった」と一様に感心していました。（大学教員）

今日はお天気がよく、画像もとてもきれいでした。それ以上に子供達の目の鋭さに驚くばかりです。鎌倉について事前に学習ができていた証拠ですね。そしてこの学習への期待感も伝わってきます。どうぞこの学習がどんどん発展して、「いつでも」「どこでも」「だれでも」参加できるものとして広がっていくことを願っています。（公立中学校教員）

私はこのページを見て砂鉄が砂浜にもあることがわかりました。鎌倉にはいろんな謎があるんですね。このページの写真の中で、磁石に砂鉄をくっつけている写真を見て、びっくりしました。砂鉄は小さいつがみたたいに見えるけどじしゃくについているとへんな物体に見えて、砂鉄ではないような感じがしました。どうして、砂浜に砂鉄があるかお父さんに聞きました。「岩が砕けてこまかいつぶになって、砂鉄になったんだよ。」と、言われました。鉄は岩の中にあるんですね。昔の人はどうやって砂鉄を集めたのでしょうか。どうやって、鉄にしたのでしょうか。（鹿児島県 小6女子）

校種を超えての学習

ねらいのところにも少し述べたが、「鎌倉時代の勉強をしよう」では、校種や立場を超えた学習を行っている。全国から寄せられる質問は多種多様で、質問者も多種多様である。東北、北陸、九州といった地域性に富んだものから、理科など他教科的な切り口を持ったものまで幅広い。

鹿児島養護学校の中学2年生は「鎌倉時代の勉強をしよう」で勉強したことをホームページに発表し、さらに「鎌倉時代の鹿児島」を調べた。「島津氏は元来鎌倉の武士であり、頼朝によって鹿児島島の守護に任命されたこと」「租税としては米や農産物以外に唐物税という、物品税があったこと」など、その地でなくてはわからないことを調べあげている。

後日O君がクラスの仲間自分の発表をするようになったので、私はその発表をリアルタイムにホームページに載せることにした。デジタルカメラに収められた発表の様子はコメントとともに随時東京にいる私のもとに送られてきた。その画像を次々にホームページ上にアップし、同時に参加していた、福井県や神奈川県の中学生、それに「中国四国農政局」や父母からもアドバイスやコメントが届いた。彼(O君)の学習を核にして多くの人が学び合ったわけである。この実験で障害の程度によっては「同じ土俵の上で」「普通の学習」ができることを証明したのである。

障害者と健常者が共に生活し



鹿児島養護学校で発表するO君

あう社会を目指そうとしている今日、学習においても互いに学び合う日が訪れることを信じてこの実験は行われた。

後日、養護学校の先生から次のようなメッセージをいただいた。

インターネットを活用し、生徒の学習への意欲や主体性を伸ばそうと始めた自由研究でしたが、最終的には夢のような「リアルタイム遠隔学習」へと発展しました。(中略)そして今回参加して下さった全国各地のみなさんからのコメントは、小さな教室でマンツーマンの授業を受けていたO君の学習活動を大きく広げることになりました。本当にありがとうございました。

続けて、O君がインターネットを活用した資料収集から、プレゼンテーションソフトによるまとめの学習活動で、コンピュータに慣れ親しみ、長期にわたった学習にもかかわらず自主的・主体的な取り組みを続けることができたこと。障害にとらわれず、立場を超えたメールのやりとりを通して、学びあう人間関係を築くことができたこと。複数の指導者から助言を受けながら、学習の焦点化を図りより深い理解へと意欲を持って取り組めたことが述べられている。

このメッセージに、私たちが目指している学習のあり方が凝縮されている。コンピュータさえあれば「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学習可能である。今後はさらに、こうした学習を行うのに相応しい教材作りを目指していくことが私たちの課題である。

学習を見た他校の先生方からのメッセージ  
西之表市立 中学校の です。

1年生はちょうど鎌倉時代を学習しているのですが、O君のレポートを見るとため息がもれるくらいよくまとめています。

自分の教えることよりはるかに詳しく書かれていて、参考になります。できるなら、本校の生徒もこれくらい上手にまとめてくれたらと思うのは私だけでしょうか。

北海道

見せていただきました。食べ物や生き方にまで及び自分の感想を随時書きこんだところがよかったね。

うちにも中学生の子どもがいます。でも試験のために歴史の勉強をしている、興味をもつ余裕もない。だからOくんみたいに電気のない時代の暮らしぶりや食事のことを調べて学ぶ体験は本当に素晴らしいと思います。

## 実践結果

以上のように「鎌倉時代の勉強をしよう」はインターネットが持っている可能性をさまざまな形で引き出すべく実験を続けている。実践結果はさらに広がりを持った時点で検証したいが、これまでに述べたように本ホームページには今日も全国の児童・生徒・成人からメールが寄せられている。

それらは「なぜだろう?」「もっと知りたい」という学問的な欲求から発せられたものであり、そこに年齢的な差はない。現在鎌倉時代に関するホームページは数多ある。それら学習ページの多くは年号や人物、あるいは事象の説明など既存の学習内容のおさらいやドリル的なページに止まっており、本ページのように質問に答えたり学習上のアドバイスをするページは極端に少ない...というより「ない」。

本ページへのアクセス数やリンク依頼の件数が多い

のはそうした要求にいていねいに応えていることへの反映であろうと私は感じている。

「鎌倉時代の勉強をしよう」の月間アクセス数は平均で6千件、全国的に鎌倉時代の学習が行われる6月には1万件を超えている。その多くは調べ学習のデータとして本ページを閲覧していると思われるが、1日10~20件の頻度で「どうして」「なぜ」の質問が寄せられる。

「鎌倉時代の甲冑がきらびやかなのはなぜ?」「人々は何を食べていたの?」「頼朝の墓に島津氏の家紋がついているのはなぜ?」「武士の日課を知りたいなあ」「どんな服を着ていたの?」「なぜ、戦で名乗りあうの?」「刀の形が江戸時代と違うのはどうして?」「市には、どんな物が売られていたの?」「昔の子は、どんな遊びをしていたの?」...これら本ページによせられた子どもたちの疑問のごく一部である。普通の学習に満ち足りない「なぜ?」「もっと知りたい」という子どもたちの気持ちの表れでもあり、これに答えるのが私たち教師の役割である。

子どもたちから寄せられたメール

お返事有難うございます。こんなに詳しく教科書に書いてあったらなと思いました。これから歴史で分からない所があれば、パンパン質問させていただきたいと思います!!(小6 女子)

ゲンボー先生へ

僕の学校は5年生のときまで歴史の授業はなく、僕は歴史が大嫌いでした。でも、毎日毎日、歴史人物の勉強をしていたら、何故か分からないけれど、どんどん好きになっていて、毎日、歴史の教科書を見るようになりました。自分でも不思議です。

こんなに歴史が好きになったのに、自分で調べないなんて、もったいないな、という気持ちがありました。ゲンボー先生のおかげで、なんだか、本当の自分ができたような気がします。

ゲンボー先生。本当にありがとうございました。これからは、自分で探す、自分の努力をたっぷり使って、社会の勉強を頑張ってみます。そして、ゲンボー先生のように、歴史博士になってみたいです。(小6 男子)

## 考察(今後の課題)

最大かつ究極の課題は「良きパートナー」との連携である。学校における社会科の授業は文部科学省の求める「考える力」「自分で解決する力」を養うというより、概して項目の羅列であり、暗記科目になりがちである。今や社会科が「暗記科目」であるというのは世間一般の常識であり、どうかすると教師自身もそのように思いこんでいる節がある。しかし、社会科本来の持つ総合的で学際的なあり方を基盤にした「自らの力で課題を解決する学習」を目指している教師も多く、私はこうした人々と手を結んで「新しい学習」の方法を模索したいと考えている。

「覚える学習」から「考える学習」への脱皮をはかろうとしている今、コンピュータを暗記マシンや単なるドリルとして使うのではなく、ネットワークを有効に活用した学習の道具として利用したいと思う。そのために学校や教科といたった従来の枠組みを離れて、教材の開発や互いのつながりを広げていきたい。コンピュータを上手に活用して子どもたちの可能性を大きく広げていきたいと思う。

\*「ゲンボー先生」は玉川学園に棲む猛禽類のチョウゲンボウからとったバーチャル先生の名前